

☆ 世 界

**綿 花** 綿花貿易 2015/16 年は回復傾向に

2014/15 年、世界の綿花輸入量は 12%減の 750 万トになる見込み。中国以外の地域の輸入量は 6%増の 590 万トとなったが、中国の輸入が 160 万トに激減したことが影響した。2015/16 年の世界の綿花輸入量は、2%増の 770 万トとわずかではあるが回復すると予想される。中国以外の地域の輸入量が 3%増の 610 万トと増加する見込みである。

バングラデシュ、ベトナム、インドネシアが、中国を除いた三大綿花輸入国である。これらの国は紡績産業の成長が続いている一方で、綿花を輸入に依存しているためである。バングラデシュの輸入量は 2014/15 年、100 万ト弱、2015/16 年も同水準の見通しである。2015/16 年のベトナムの輸入量は 6%増の 92.7 万ト、インドネシアの輸入量は 4%増の 80 万トとなる見通しである。

米国の綿花輸出は、2014/15 年の高需要を反映し、2015/16 年も 230 万トの水準をキープする見通し。インドの綿花輸出量は 2014/15 年は 50%減の 100 万トの見込みであるが、2015/16 年には、120 万トに回復する可能性もある。

綿花輸入の推移をみると、2011/12 年、中国の綿花輸入量は 530 万トとなり、中国以外の地域の輸入量(440 万ト)を上回ったが、以降は、中国以外の地域の綿花輸入は増加を続ける一方、中国の綿花輸入は減少を続けてきた。

2015/16 年の世界の綿花作付面積見通しは、2014/15 年の綿花安の影響で、7%減の 3,313 万畝となり、結果、世界の綿花生産量は 9%減の 2,390 万トになるとの見通しである。中国で 2015 年の綿花補助政策の縮小が発表されたことで、中国の綿花作付面積は 12%減の 380 万畝となり、2015/16 年の中国の綿花生産量は 540 万トまで減少する可能性がある。インドの綿花作付面積は 2014/15 年、1,230 万畝となったが、2015/16 年は 5%減の 1160 万畝となる見通しである。過去三年間の平均イールドから算出すると、生産量は 2%減の 640 万畝となる見込み。米国の綿花作付面積予想は、綿花価格の下落や天候不順の見通しにより、15%減の 330 万畝となると見込まれる。米国の生産量は、912kg/畝のイールドと仮定した場合、14%減の 300 万トとなる見通しである。

2014/15 年の世界の綿花消費量は、3%増の 2,430 万トとなり、2015/16 年は 2%増の 2490 万トとなる見通し。中国の国内綿花価格は、2013/14 年の平均 139 ㇀/lb から、2015 年の 1~5 月には、100 ㇀/lb を

割る水準に下落したが、これは、中国政府の綿花備蓄政策が終了したためである。中国の綿花消費量は、2015/16年の綿花価格が大きく変動しない場合には770万トン水準で推移する見込み。世界第2位の綿花消費国であるインドは、2015/16年は3%増の540万トンになる見通し。パキスタンの綿花消費量は、綿糸輸入が増加する見通しにもかかわらず、3%増の26万トンになる見通し。

綿花の期末在庫については、2010/11年以來、初めて減少する見込みであり、2015/16年は5%減の2,080万トンになる見通しである。中国の在庫は6%減の1,180万トンとなるが、世界の在庫の56%を占める。中国以外の地域では、2014/15年の在庫は19%増の940万トンになる見込みであるが、2015/16年には3%減の910万トンになる見通し。

#### 世界の綿花需給見通し

(100万トン)

	2013/14	2014/15	2015/16
生産	26.30	26.17	23.90
消費	23.76	24.36	24.93
輸入	8.68	7.52	7.68
輸出	8.88	7.52	7.68
期末在庫	20.00	21.82	20.79
価格*	90	71	72

\*Cotlook A インデックス(セント/ポンド)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通しをもとに推計した。

## ☆ 中 国

### 繊維政策

#### 国産高性能繊維展示会を開催

このほど、SAMPE(先端材料技術国際会議)中国2015年次総会が北京で開かれ、それに併せて中国化繊工業協会が国産高性能繊維10年の発展成就展「高性能繊維と先進複合材料展覧会」を主催した。この展覧会には、中国企業12社が参加し、現在の中国における高性能繊維分野の研究成果、最新技術及び産業化の情報が展示された。また、同時に、「高性能繊維と先端複合材料に関するシンポジウム」も開かれた。

参加した12社は、奥神新材料、河北硅谷、湖南中泰、蘇州金泉、蘇州賽菲集団、泰和新材料、威海拓展、浙江格尔泰斯材料、中復神鷹

などが含まれ、中国の炭素繊維、アラミド繊維、超高分子量ポリエチレン繊維、PPS 繊維、玄武岩繊維、ポリイミド繊維、フッ素繊維など高性能繊維及び複合材料分野の最も先進的な製品や技術を展示した。

このうち、煙台泰和新材料はパラ系アラミド繊維を展示、中復神鷹は最新の炭素繊維製品を発表した。同社は中国の国産炭素繊維市場の中で 70%のシェアを有し、カーボン芯ケーブル、スポーツ用品、建築補強材、圧力容器、風力発電プロペラ、自動車、航空宇宙分野など広範に使用されている。

近年、世界の高性能繊維及びその複合材料産業の市場規模は 3,000 億ドルを超え、年 5~8%の成長を維持しているとされる。その中で、中国の高性能繊維は、先進国に比べスタートは遅かったが、中国政府の産業政策のもと、大きな成果を上げてきた。現在、中国は 1,000 トン級の炭素繊維、アラミド繊維、PPS 繊維、超高分子量ポリエチレン繊維、玄武岩繊維など重要な繊維材料の生産能力を有し、国産の高性能繊維の生産技術、工程、産業体系が確立されており、製品品質は向上している。

今回の活動に合わせ、中国航空工業集団(AVIC)、中国商用飛機(COMAC)、中国航天科技集団(CASC)、中国船舶重工集団(CSIC)、エアバス、ボーイング、米国 GE、ロシア航空材料研究院(ВИАМ)、BMW、ボンバルディア、韓国材料・機械研究院(KIMM)、京都工織大学などが参加した討論会が開催され、「2014 年の高性能繊維の現状分析と 2015 年の発展見通し」、「フッ素ポリアリレート製造と及び繊維構造性能研究」、「超高分子量ポリエチレン繊維の用途開拓」、「炭素繊維の現状と発展の見通し」、「ポリイミド繊維の製造技術」、「国産パラ系アラミド繊維の産業チェーンの研究と業界の発展」などのテーマが議論された。

以上